



大きくなると、なぜ男女の体にちがいができてくるの



子孫を残すために、大人になると赤ちゃんを産み育てられる母親の体や、父親の体ができてくるからだよ。

男女の役割^{やくわり}によって、体のしくみがちがってくる

植物や動物は、ぜつめつしないように子孫を残します。動物は、たいてい、たまごか赤ちゃんで子孫を残します。でも、オスがいないところで飼^かわれているニワトリのたまごは、あたためてもふ化しません。オスの精子^{せいし}が結びついた受精卵^{じゅせいらん}でないと、ふ化できないのです。赤ちゃんも、受精卵から命が始まります。

メスには、たまごや赤ちゃんを産める体のしくみが必要です。また、たまごは、中の栄養分^{えいようぶん}で子どもが成長しますが、赤ちゃんは、母親の体内で栄養をもらいながら成長し、生まれてからも、乳^{ちち}を飲ませてもらいます。そのため、メスには、オスにはない体のつくりが、必要になってくるのです。

子どもから大人の体に変わるころ、いろいろな変化が始まる

女の子は9～14才ごろ、男の子は10～14才ごろ、子どもから大人の体への変化が始まります（人によって、ちがいが多い）。

体内に女性ホルモンや、男性ホルモンとよばれるものが出てくるのです。女の子は女性ホルモンのほたらきで、乳^{ちち}ぶさがふくらんできて、卵子^{らんし}がつくられるようになり、赤ちゃんを体内（子宮^{しきゅう}）で育てることができる体ができてきます。男の子は、精子^{せいし}がつくられるようになり、ひげがはえたり、筋肉^{きんにく}が発達したがちりした体つきになってきます。

